

ガスによる色の変化は、クリーニング後の保管において発生することが推測される現象で、最近の鑑定依頼ではナイロンのダウンジャンパーが目立っています。衣替えのこの時期、冬物衣料の返却時にガスによる変色について情報提供することは、お客様とのトラブルを回避するための有効な手段になります。

今回は、保管後に利用者から持ち込まれた事故事例を紹介いたします。

監修／クリーニング総合研究所

### 衣類の状態

スカート全体がオレンジ色っぽく変色、特に両脇や裾の変色が著しい。変色部と正常部の境界は不明瞭で、グラデーションになっている。

クリーニング後クローゼットに保管、着用しようとしたところ色の変化に気がついたため、クリーニング店に持ち込まれたもの。

や亜硫酸ガスが作用することで染料が分解するなどして色が変化したもの。

酸化窒素ガスは、燃料が燃焼する際に空気中の窒素と酸素が化合して発生する。家庭内では、石油・ガスストーブ、ガスコンロ、ガス湯沸し器などから発生する。また、自動車の排気ガスも変色の原因となる。

### 原因

着用や保管の際、酸化窒素ガス

亜硫酸ガスは、石炭、重油、軽油などの燃料が燃焼する際、これらに含まれている硫黄分と空気中の酸素とが化合して発生する。主な発生源には、火力発電所、工業

用ボイラー、非鉄金属精錬所などがある。

また、海洋、土壌、火山などの自然環境からも亜硫酸ガスを生成する硫黄分が放出されており、こうした硫黄分の中の相当量が自然発生的に亜硫酸ガスなどに変化している。

にクリーニング店に苦情を持ち込むものと考えられる。

したがって、苦情の防止対策としては利用者に対してガスによる事故の実態を周知し、目に見えない大気中のガスが衣料品の色の変化の原因になることを理解させることが必要。

### 事故が発生しやすい素材

反応染料を使用した綿の染色品の一部や、分散染料を使用したアセテートおよびナイロン染色品の一部などに生じやすい。

受付時にはチェックを徹底し、わずかでも変化を見つけた場合はクリーニングで明瞭化する可能性を伝える。

### 事故の防止対策

ガスによる色の変化の大半は、着用時や家庭での保管中に生じている可能性が高い。しかし、利用者はこうした現象を理解していないために原因がクリーニングの処理にあるものと思ひ込み、結果的

返却時には、燃焼ガスや排気ガス等で汚染された空気が滞留しやすい場所での長期保管や放置に注意すること、ガスは水分に吸着しやすいため、雨に濡れたり水分が付着した際は十分に乾燥させることなどのアドバイスも有効な啓発手段になる。

また、クリーニング店でもガスの作用で変色する可能性があるため、保管には十分な注意が必要。



変色部と正常部の境界は不明瞭でグラデーションになっている



カーキ色のスカート。全体がオレンジ色っぽく変色し、特に両脇や裾の変色が著しい

- 品名…スカート
- 素材…レーヨン64%、綿25%、ナイロン7%、ポリウレタン4%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、加熱静止乾燥

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。  
全ク連HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」

着用・保管  
取扱い  
に注意